

事業番号 2022 - 文科 - 21 - 0240

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	ムーンショット型研究開発プログラム			担当部局	科学技術・学術政策局	作成責任者						
事業開始年度	平成30年度	事業終了 (予定) 年度	終了予定なし	担当課室	研究開発戦略課	戦略研究推進室長 釜井 宏行						
会計区分	一般会計											
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律(平成20年法律第63号)第27条の2第1項			関係する 計画、通知等	第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定) 経済財政運営と改革の基本方針2022(令和4年6月7日閣議決定) 新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画(令和4年6月7日閣議決定) 統合イノベーション戦略2022(令和4年6月3日閣議決定)							
主要政策・施策	科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興							
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	未来社会を展望し、困難だが実現すれば大きなインパクトが期待され、多くの人々を魅了するような斬新かつ挑戦的な目標を掲げ、国内外からトップ研究者の英知を結集し、関係府省庁が一体となって集中・重点的に挑戦的な研究開発を推進するムーンショット型研究開発制度を創設することで、我が国の競争力強化に資する。											
事業概要 (5行程度以内。別添可)	非連続的・破壊的なイノベーションを創出するためのハイリスク・ハイインパクトな研究開発を推進する。事業の実施に当たっては、困難だが実現すれば大きなインパクトが期待される社会課題等を対象に、CSTI等が「ムーンショット目標」を設定し、我が国の基礎研究力を最大限に引き出す挑戦的研究開発を積極的に推進し、失敗も許容しながら革新的な研究成果を発掘・育成に導く。また、進化する世界の研究開発動向を常に意識し、関係する研究開発全体を俯瞰して体制や内容を柔軟に見直すことができるマネジメントを導入する。文部科学省が実施する本事業では、ムーンショット型研究開発制度の基本的な考え方について、平成30年12月の総合科学技術・イノベーション会議決定を踏まえ、科学技術振興機構に基金を造成し、研究開発を実施する。【定額補助】											
実施方法	補助											
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	令和元年度	1,600	令和2年度	1,600	令和3年度	1,600	令和4年度	2,960	令和5年度要求	2,960
		補正予算	-	-	-	68,000	-	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		予備費等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		計	1,600	1,600	1,600	69,600	2,960	2,960	2,960	2,960	2,960	
	執行額	1,600	1,600	1,600	69,600							
	執行率 (%)	100%	100%	100%	100%							
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)	100%	100%	100%	100%								
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由								
	革新的研究開発推進基金 補助金	2,960	2,960									
	計	2,960	2,960									
活動内容 (アクティビ ティ)	ムーンショット目標の達成及び研究開発構想の実現に向けた挑戦的な研究開発の実施											
活動目標及び 活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込			
	事業終了時までにムーン ショット目標の達成に資する 成果を多く創出する。	ムーンショット目標に基づき 実施している研究開発課題 数 (※PM採択・研究開発開始 が令和2年度からのため、 令和元年度以前の実績は 記載せず)	活動実績	件	-	19	40	-	-			
			当初見込み	件	-	19	19	56	56			
単位当たり コスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込				
	執行額(X)÷課題数(Y) (※PM採択・研究開発開始が令和2年度からのため、令 和元年度以前の実績は記載せず ※令和3年度に補正予算を基金として交付しているが、 当該年度ではPMの採択が決定していなかったために計 算式の執行額には含めず、令和4年度活動見込みに含 める)			単位当たり コスト	百万円/件	-	84	40	1,267			
				計算式	X/Y	-	1,600/19	1,600/40	70,960/56			

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度	
				-	-	-	年度	年度	
総合科学技術・イノベーション会議が示す「ムーンショット目標」の実現に向け、関係府省と連携して、常識にとられない革新的な技術アイデアの創出を目指す。	事業終了時にムーンショット目標の達成に資する成果が創出されたと評価された数。事業の実施に当たっては、失敗を許容しながら挑戦的な研究開発を推進していることから事業途中及び最終年度の目標値は設定しない。	成果実績	件	-	-	-	-	-	
		目標値	件	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名(出典)	文部科学省調べ								
政策評価 政策 施策	9 未来社会に向けた価値創出の取組と経済・社会的課題への対応								
	9-1 未来社会を見据えた先端基盤技術の強化	政策評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221012-mxt_kanseisk01-000024706-07.pdf						
		該当箇所	達成目標4						
事業所管部局による点検・改善									
国費投入の必要性	項目			評価	評価に関する説明				
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。			○	非連続的なイノベーションを生み出す研究開発を推進する本事業は、我が国の競争力の向上にも貢献することから、国民や社会のニーズを反映していると言える。				
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○	非連続的・破壊的なイノベーションを創出するため、失敗も許容した大胆な挑戦が可能となるよう支援する本事業は、地方自治体、民間等に委ねることは困難であり、国が実施すべき事業である。				
事業の効率性	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。			○	「統合イノベーション戦略2021」等にも、ムーンショット型研究開発制度を推進する旨記載されており、政策目的の達成に必要なかつ政策体系の中での優先度も高い事業である。				
	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			-					
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。			無					
	競争性のない随意契約となったものはないか。			無					
	受益者との負担関係は妥当であるか。			-					
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。			-					
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			-					
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○	実施報告の確認や検査を実施し、研究開発の実施に真に必要な経費に限定されていることを精査している。				
事業の有効性	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			-					
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			-					
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。			○	各目標、研究開発プロジェクトごとに、PD、PMを置き、研究計画の作り込み及び精査を実施し、効率的な推進を担保している。				
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。			-					
関連事業	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。			-					
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。			-					
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。			-					
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			○					
	事業番号		事業名		総合科学技術・イノベーション会議(令和2年1月23日)にて6つの「ムーンショット目標」が決定。その後、健康・医療戦略推進本部(令和2年7月14日)にて1目標が決定。総合科学技術・イノベーション会議(令和3年9月28日)にて2目標が決定。文部科学省、農林水産省、経済産業省、内閣府それぞれが担当するムーンショット目標における研究開発を行う。				
2022	経産	21	0019	ムーンショット型研究開発事業					
2022	農水	21	0220	ムーンショット型農林水産研究開発事業					
2022	府	21	0185	健康・医療分野におけるムーンショット型研究開発事業					

点検・改善結果	点検結果	本事業は、困難だが実現すれば大きなインパクトが期待される社会課題等を対象とする挑戦的な研究開発を行うものであることから、政策体系における優先度が高く、国が取り組むべき事業である。
	改善の方向性	引き続き、事業の効率性・有効性を担保しつつ、挑戦的な研究開発を推進する。

外部有識者の所見

外部有識者による点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

事業内容の一部改善の	国からの執行率は100%ではあるが、実際はJSTへの基金の積み増し分が多くを占めており、現時点では研究機関まで資金が流れていないと思われる。本事業においては、JSTに造成された基金の執行状況も含めて事業全体を評価すべきと考えられるため、予算執行においては留意されたい。なお、R3年度の単位当たりコストは、採択課題に対する設定を検討すべきである。
------------	--

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

改年度改善を内検に	レビューチームの所見を踏まえ、引き続き適切な造成された基金の執行状況の評価及び単位当たりコストの設定についてを検討する。
-----------	--

備考

○ムーンショット型研究開発制度(内閣府HP)
<https://www8.cao.go.jp/cstp/moonshot/index.html>

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度	-			
平成24年度	-			
平成25年度	-			
平成26年度	-			
平成27年度	-			
平成28年度	-			
平成29年度	-			
平成30年度	新31-0021			
令和元年度	文部科学省 - 0220			
令和2年度	文部科学省 0222			
令和3年度	2021 文科 20 0240			

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

なお、金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。

・革新的研究開発推進基金
 科学技術・イノベーション創出の活性化に関する法律第27条の2に基づき、科学技術振興機構に基金を造成するために補助金を交付。

文部科学省
 69,600百万円

【補助金等交付：革新的研究開発推進基金への積み増し】

A. 国立研究開発法人科学技術振興機構
 革新的研究開発推進基金
 令和3年度末基金残高 136,493百万円

【公募・採択を経た、随意契約(企画競争)による研究委託】

B. 研究機関(298件)
 13,801百万円

〔ムーンショットに係る研究開発を実施。〕

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位：百万円)

費目・用途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)

A.国立研究開発法人科学技術振興機構			B.国立大学法人東京大学		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
研究補助	研究者等に交付するための基金増成分	69,600	物品費	信号発生器、他	2,106
			人件費・謝金	研究員人件費、他	558
			その他	研究実施場所整備費、他	198
			旅費	国内出張旅費、他	55
計		69,600	計		2,917

